

第二次選定の検討対象種一覧(哺乳類・鳥類)(案)

第3回哺乳類・鳥類会合(5/18)

\*要:要注意リスト掲載種、未:未判定外来生物、日本生態学会ワ-スト100 IUCNワ-スト100

和名	学名	*	文献等で指摘されている影響の内容	摘要
----	----	---	------------------	----

第二次の特定外来生物の選定作業が必要と考えられる外来生物

ナミハリネズミ マシウハリネズミ	<i>Erinaceus europaeus</i> <i>E. amurensis</i>	要	生態系(競合・駆逐、捕食)	海外では、鳥類の卵・雛、又は昆虫類等を捕食することでの影響が懸念されている。国内でも一部の地域で定着が確認されている。
キリス	<i>Sciurus vulgaris</i>	要	生態系(競合・駆逐、遺伝的攪乱)、 農林水産業	亜種エゾリスとの交雑が懸念される。林業被害(樹皮剥ぎ)が海外で報告されている。
チョウセンマリス	<i>Tamias sibiricus barberi</i>	要	生態系(競合・駆逐、遺伝的攪乱)	亜種エゾマリスとの交雑が懸念される。
タイリクモモンガ	<i>Pteromys volans</i>	要	生態系(競合・駆逐、遺伝的攪乱)	亜種エゾモモンガとの交雑が懸念される。
アメリカミンク	<i>Mustela vison</i>	要	生態系(競合・駆逐、捕食)	北海道では定着が確認されている。在来の哺乳類、鳥類、甲殻等の捕食が懸念され、特に水鳥への大きな影響が指摘されている。
シカ属(8種) 全種*	<i>Cervus</i> spp <i>C. albirostris</i> , <i>C. canadensis</i> など	要	生態系(遺伝的攪乱)、農林水産業	ニホンジカとの交雑が海外で報告されている。採食による林業被害のおそれがある。養鹿施設などで一部飼育されている可能性がある。

海外での被害の内容を確認し、我が国で被害を及ぼす可能性について十分検討する外来生物

シリアヒヨドリ	<i>Pycnonotus cafer</i>		生態系(競合・駆逐)、農林水産業	海外で野菜や果物の食害を与えている。在来のヒヨドリとの競合が懸念される。
---------	-------------------------	--	------------------	--------------------------------------

被害に係る一定の知見はあり、被害の防止に向けた普及啓発・防除手法の具体的検討を進めつつ、引きつづき、指定の適否につき検討する外来生物

インドクジャク	<i>Pavo cristatus</i>	要	生態系(競合・駆逐)	野外への定着は、沖縄においてのみそのおそれがある可能性があるが、沖縄以外でも教育用や展示用で広範に飼養されている。
---------	-----------------------	---	------------	---

関係者に利用に当たっての注意を呼びかけるとともに、被害に係る知見等の情報の集積を図る必要がある外来生物

リスザル	<i>Saimiri sciureus</i>	要	生態系(競合・駆逐)	野外での目撃事例が多い。
フェレット	<i>Mustela furo</i>	要	生態系(競合・駆逐、捕食)	海外では、野生化した個体による鳥類の卵・雛などの捕食が報告されており、愛玩飼養を禁止している国もある。我が国への輸入個体は、ほとんどが去勢・不妊、臭腺除去手術が施されている。
外国産メジロ (ハイラムメジロ、 ヒメメジロなど)**	<i>Zosterops palpebrosus</i> , <i>Z. japonicus simplex</i> など	要	生態系(遺伝的攪乱、競合・駆逐)	野生化すれば、近縁種および亜種間で交雑が起こり、遺伝的攪乱を招く可能性が高いと思われるが、交雑の事例が確認されていない。優占種になることにより、似た資源を利用する在来の競争種への影響が懸念される。外国産及び在来のメジロについては、鳥獣保護法により輸入や飼養が規制されている。

\*在来ニホンジカ(*Cervus nippon nippon*、*C.n.keramae*、*C.n.pulchellus*、*C.n.yakushimae*、*C.n.yezoensis*)を除く

\*\* *Z. japonicus*の亜種、ヒメメジロ(*Z. japonicus simplex*)、ハイラムメジロ(*Z. j.hainanus*)、キナメジロ(*Z. j.batansis*)、アイリビメジロ(*Z. j.meyeni*)を含む。

第二次選定の検討対象種一覧 爬虫類・両生類 (案)

第3回爬虫類・両生類会合(5/23)

\*要:要注意リスト掲載種 日本生態学会ワ-スト100 IUCNワ-スト100

科名	学名	*	文献等で指摘されている影響の内容	摘要
----	----	---	------------------	----

第二次の特定外来生物の選定作業が必要と考えられる外来生物

シロアマガエル	<i>Polypedates leucomystax</i>	要	生態系(競合・駆逐・捕食)	輸送物資への混入を防ぎ、未定着地域への拡散分布を防ぐように心がける必要がある。
コキコヤスカエル	<i>Eleutherodactylus coqui</i>	要	生態系(競合・駆逐・捕食)	ハワイ諸島をはじめ、いくつかの地域に非意図的に導入され定着している。直接発生を行い、水面がなくても繁殖できる特性を持つ。
ウシガエル	<i>Rana catesbeiana</i>	要	生態系(競合・駆逐・捕食)	昆虫、甲殻類、魚類等の様々な動物を捕食し、生態系を攪乱。食用としての流通がある。
キューバアマガエル	<i>Osteopilus septentrionalis</i>		生態系(競合・駆逐・捕食)	ハワイ諸島、フロリダ、バーミンガム、コスタリカなどに侵入し、昆虫、カエルから鳥類までをも捕食する。

関係者に利用に当たっての注意を呼びかけるとともに、被害に係る知見等の情報の集積を図る必要がある外来生物

ワニガメ	<i>Macrolemys temmincki</i>	要	人の生命、身体に係る被害	カミツキガメと同様に危険動物に指定されている。
ミシシッピアカミミガメ	<i>Trachemys scripta elegans</i>	要	生態系(競合・駆逐・捕食)	在来のカメ類との競合のおそれがある。大量に飼育されており、規制によって大量に遺棄される可能性がある。
キハラガメ	<i>Trachemys scripta scripta</i>	要	生態系(競合・駆逐・捕食)	生態がミシシッピアカミミガメと同様で、やや多く流通しており、逸出個体がしばしば見つかる。定着してミシシッピアカミミガメと同様の生態系影響を引き起こす懸念がある。
クーターガメ(アカハラガメ)属全種	<i>Pseudemys</i> spp.	要	生態系(競合・駆逐・捕食)	生態がミシシッピアカミミガメとやや類似しており、また比較的多く流通しており逸出個体がしばしば見つかる。定着してミシシッピアカミミガメと同様の生態系影響を引き起こす懸念がある。
チヌガメ属の3種	<i>Graptemys</i> spp.	要	生態系(競合・駆逐・捕食)	こせチヌガメ <i>Graptemys pseudogeographica</i> 、フトヌチヌガメ <i>G. ouachitensis</i> (サビンチヌガメ <i>G. o. sabinensis</i> を含む)、ミシシッピチヌガメ <i>G. kohnii</i> の3種。生態がミシシッピアカミミガメとやや類似しており、また流通しており逸出個体がしばしば見つかる。定着してミシシッピアカミミガメと同様の生態系影響を引き起こす懸念がある。
ハナガメ	<i>Ocadia sinensis</i>	要	生態系(競合・駆逐・捕食)、交雑	逸出個体がしばしば見つかるが、亜熱帯に分布し、南日本では定着のおそれがある。飼育下でクサガメとの交雑と思われる例があり、野外でも在来種との交雑のおそれがある。
チュウゴクスッポン	<i>Polodiscus sinensis sinensis</i>	要	生態系(競合・駆逐・遺伝的攪乱)	在来のスッポンとの交雑や競合のおそれがある。利用の実態等について把握をすることが必要。
アメリカスッポン属全種	<i>Apalone</i> spp.	要	生態系(競合・駆逐・捕食)	<i>A. spinifer</i> は、アメリカ東部原産ながら、西海岸などにも定着、国内では、やや多く流通しており、温帯に産するため逸出個体が定着するおそれがある。
グリーンイグアナ	<i>Iguana iguana</i>	要	生態系(競合・植生破壊)	大量に取り引きされるが、きわめて大型になり持て余されやすく、遺棄された個体が頻りに報告される。
ヒョウモンタケトドキ	<i>Eublepharis macularius</i>	要	生態系(野生動物への病原体蔓延)	寄生性の原虫クリプトスポリジウム <i>Cryptosporidium</i> sp.に高い割合で感染しており、さまざまな野生爬虫類への媒介、蔓延が懸念される。この原虫は徳之島に生息する希少種オトコトドキに対して致死的であり、致死率はきわめて高いことが知られる。
アフリカツミガエル	<i>Xenopus laevis</i>	要	生態系(競合・駆逐・捕食)	実験用等として、大量に利用されている。
ヒキガエル属の5種	<i>Bufo</i> spp.	要	生態系(競合・駆逐・捕食)	ヨーロッパヒキガエル <i>Bufo viridis</i> 、テキサスミドリヒキガエル <i>Bufo debilis</i> 、ナゾヒキガエル <i>Bufo terrestris</i> 、カルフォルニアヒキガエル <i>Bufo valliceps</i> 、ロコヒキガエル(キャノンヒキガエル) <i>Bufo paracnemis</i> の5種。日本においてヒキガエル属が外来種となっている例は多い。これらの種はヒキガエル属の中でも輸入が比較的多く、主として温帯に分布する。

第二次選定の検討対象種一覧 魚類(案)

\*要:要注意リスト掲載種、日本生態学会ワ-スト100 IUCNワ-スト100

和名	学名	*	文献等で指摘されている影響の内容	概要
----	----	---	------------------	----

第二次の特定外来生物の選定作業が必要と考えられる外来生物

カダヤシ	<i>Gambusia affinis</i>	要	生態系(捕食、競合・駆逐)	蚊の防除を目的に導入され、全国各地の水田、用水路、池沼、細流等に定着してメダカを駆逐しており、今後とも都市化に伴ってさらに分布を拡大するおそれがある。
ケツキヨ	<i>Siniperca chuatsi</i>	要	生態系(捕食、競合・駆逐)	温帯域に生息し、繁殖力が旺盛な魚食性淡水魚であり、捕食等により在来生物相に影響を与えるおそれが指摘されている。国内では一部で食用や観賞用として利用されている。
コウライケツキヨ	<i>Siniperca scherzeri</i>	要	生態系(捕食、競合・駆逐)	ケツキヨと生態が類似する淡水魚であり、導入すれば定着し、在来生物相に影響を与えるおそれがある。国内では一部で観賞用として利用されている。
ストライプトバス	<i>Morone saxatilis</i>	要	生態系(捕食、競合・駆逐)	温帯域に生息し、繁殖力が旺盛な魚食性淡水魚であり、捕食等により在来生物相に影響を与えるおそれが指摘されている。国内では一部で釣魚として利用されている。
ホワイトバス	<i>Morone chrysops</i>	要	生態系(捕食、競合・駆逐)	温帯域に生息し、繁殖力が旺盛な魚食性淡水魚であり、捕食等により在来生物相に影響を与えるおそれが指摘されている。
ヨーロッパパーチ	<i>Perca fluviatilis</i>	要	生態系(捕食、競合・駆逐)	温帯域に生息し、繁殖力が旺盛な魚食性淡水魚であり、海外では捕食等により在来生物相に大きな被害を及ぼすことが知られている。国内では一部で観賞用として利用されているのみだが、導入すれば定着し、同様な被害を及ぼすおそれがある。
ハイクパーチ	<i>Sander lucioperca</i>	要	生態系(捕食、競合・駆逐)	温帯域に生息し、繁殖力が旺盛な魚食性淡水魚であり、海外では捕食等により在来生物相に大きな被害を及ぼすことが知られている。国内では一部で観賞用として利用されているのみだが、導入すれば定着し、同様な被害を及ぼすおそれがある。なお、アメリカの研究者は、Sander属ではなく、Stizostedion属を適用している。
マレーコッド	<i>Maccullochella peelii</i>	要	生態系(捕食、競合・駆逐)	温帯域に生息し、繁殖力が旺盛な魚食性淡水魚であり、捕食等により在来生物相に影響をおよぼすおそれがある。国内では一部で観賞用として利用されている。
ゴールドンパーチ	<i>Macquaria ambigua</i>	要	生態系(捕食、競合・駆逐)	温帯域に生息し、繁殖力が旺盛な魚食性淡水魚であり、捕食等により在来生物相に影響をおよぼすおそれがある。国内では一部で観賞用として利用されている。
ノーザンバイク	<i>Esox lucius</i>	要	生態系(捕食、競合・駆逐)	温帯域に生息し、繁殖力が旺盛な魚食性淡水魚であり、捕食等により在来生物相に影響をおよぼすおそれがある。国内では一部で観賞用として利用されている。
マスキーバイク	<i>Esox masquinongy</i>	要	生態系(捕食、競合・駆逐)	温帯域に生息し、繁殖力が旺盛な魚食性淡水魚であり、捕食等により在来生物相に影響をおよぼすおそれがある。国内では一部で観賞用として利用されている。

被害に係る一定の知見はあり、被害の防止に向けた普及啓発・防除手法の具体的検討を進めつつ、引きつづき、指定の適否につき検討する外来生物

タイリクバラナゴ	<i>Rhodeus ocellatus ocellatus</i>	要	生態系(競合・駆逐、遺伝的攪乱)	全国各地の池沼や水路、河川等に定着し、交雑による遺伝的攪乱等により亜種ニッポンバラナゴを駆逐してきた。ただし、観賞魚として多数の飼養があり、直ちに規制を行なうと大量に遺棄を生じ、かえって被害が増大するおそれがある。また、形態的特徴のみで亜種間の識別を行うのが難しく、防除の実施も非常に困難であるのが実状である。まずは、飼養に当たり野外への遺棄を起こすことがないよう、関係業者や利用者に普及啓発を行なうことが重要。
ニジマス	<i>Oncorhynchus mykiss</i>	要	生態系(競合・駆逐)	在来のサケ科魚類や水生昆虫等に影響を与える可能性が指摘されていることに留意し、適切な管理を行なうことが重要。全国的に養殖や管理釣り場で利用され、遊漁を目的として各地の水域に導入されているにも関わらず、今のところ北海道等の限られた地域でしか繁殖が確認されておらず、今後とも全国的な被害に発展する可能性は低いものと考えられる。
フラウトラウト	<i>Salmo trutta</i>	要	生態系(捕食、競合・駆逐)	遊漁を目的として導入されたものが定着したあと、在来のサケ科魚類やヨシノボリ類などが急減するなど、在来生物相に影響を及ぼしていることが指摘されており、適切な管理を行うことが重要。捕食による在来種への影響等は主に北海道で確認されている。本州の4府県で漁業権が設定されている。
カマス	<i>Salvelinus fontinalis</i>	要	生態系(捕食、競合・駆逐、遺伝的攪乱)	北海道や本州の一部でイワナ属魚類との交雑が確認されている。本州での自然繁殖の事例は少ないが、イワナ類等の生息域に導入すれば定着する可能性があり、分布を拡大することがないよう適切な管理を行うことが重要。栃木県では、長年にわたり研究対象とされているが、この地域からの自然の分布拡大は確認されていない。
グッピー	<i>Poecilia reticulata</i>	要	生態系(競合・駆逐)	沖縄島等で定着し、在来のメダカに影響を及ぼす可能性が指摘されている。ただし、全国的に多数の飼養者がある一方で、定着の可能性が想定されるのは琉球列島や温泉地等に限定されており、今後とも全国的な被害に発展する可能性は低いものと考えられる。まずは、飼養に当たり野外への遺棄を起こすことがないよう、関係業者や利用者に普及啓発を行なうことが重要。

和名	学名	*	文献等で指摘されている影響の内容	摘要
----	----	---	------------------	----

関係者に利用に当たっての注意を呼びかけるとともに、被害に係る知見等の情報の集積を図る必要がある外来生物

ソウキョ	<i>Ctenopharyngodon idellus</i>	要	生態系(環境攪乱)	食用目的で導入され、最近では釣りや水草除去のために堀や湖沼に放流されているが、繁殖が可能な水域は広大な下流域を有する利根川水系等に限定されるため、これ以上の分布拡大の可能性は低い。ただし、過剰に放流された水域では、在来植物群落を壊滅させる事例もあり、安易な放流を行わないよう注意が必要。
アオウオ	<i>Mylopharyngodon piceus</i>	要	生態系(競合・駆逐)	食用目的で導入され、いくつかの水系で生息が確認されているが、繁殖が可能な水域は広大な下流域を有する利根川水系等に限定されるため、これ以上の分布拡大の可能性は低い。ただし、生態系に影響を与える可能性が指摘されていることに留意し、飼養等に当たっては適切な管理を行なうことが重要。
オオタナゴ	<i>Acheilognathus macropterus</i>	要	生態系(競合・駆逐)	近年、霧ヶ浦を含む利根川水系で定着・急増し、在来のタナゴ類を駆逐しているおそれが指摘されているが、被害の実態は不明。早急に知見の集積に努めるとともに、これ以上の分布拡大が起こることがないよう、適切な管理を行なうことが重要。
ナイルハーチ	<i>Lates niloticus</i>	要	生態系(捕食・競合・駆逐)	食用や観賞用として利用されているが、飼養場所からの逸出により生態系に影響を与える可能性があることに留意し、適切な管理を行なうことが重要。熱帯・亜熱帯性であり、定着の可能性が想定されるのは琉球列島等のみである。
タイリクスズキ	<i>Lateolabrax sp.</i>	要	生態系(捕食・競合・駆逐)	海域で小割生け簀を使って養殖されているが、飼養場所から大量に逸出した場合は、一時的に在来種等と過度な競争関係が生じる可能性が指摘されていることに留意し、適切な管理を行なうことが重要。
ナイルティラピア	<i>Oreochromis niloticus</i>	要	生態系(競合・駆逐)	食用として利用されているが、飼養場所からの逸出により、生態系に影響を与える可能性が指摘されていることに留意し、適切な管理を行なうことが重要。熱帯・亜熱帯性であり、定着の可能性が想定されるのは琉球列島や温泉地等のみである。
カラスモ	<i>Oreochromis mossambicus</i>	要	生態系(競合・駆逐)	食用として利用されているが、飼養場所からの逸出により、生態系に影響を与える可能性が指摘されていることに留意し、適切な管理を行なうことが重要。熱帯・亜熱帯性であり、定着の可能性が想定されるのは琉球列島や温泉地等のみである。
カムルチー	<i>Channa argus</i>	要	生態系(捕食・競合・駆逐)	全国各地に定着し、霧ヶ浦等では一時的に急増したが、現在は安定期に入り、目立った被害は確認されていない。ただし、釣魚として利用されており、飼養場所からの逸出、不用意な放流等により、生態系に影響を与える可能性が指摘されていることに留意し、今後とも適切な管理を行なうことが重要。
タイワンドシヨク	<i>Channa maculata</i>	要	生態系(捕食・競合・駆逐)	西日本を中心に定着しているが、目立った被害は確認されていない。ただし、釣魚として利用されており、飼養場所からの逸出、不用意な放流等により、生態系に影響を与える可能性が指摘されていることに留意し、今後とも適切な管理を行なうことが重要。
コウタイ	<i>Channa asiatica</i>	要	生態系(捕食・競合・駆逐)	飼養場所からの逸出、不用意に持ち出し放流等を行うことにより、生態系に影響を与える可能性が指摘されていることに留意し、適切な管理を行なうことが重要。
ヨーロッパナマス	<i>Silurus glanis</i>	要	生態系(捕食・競合・駆逐)	観賞用として利用されているが、野外で定着した場合に生態系に影響を与える可能性があることに留意し、飼養に当たって野外への遺棄を起こすことがないよう、関係業者や利用者に普及啓発を行なうことが重要。
ウォーキングキャットフィッシュ	<i>Clarias batrachus</i>	要	生態系(捕食・競合・駆逐)	観賞魚として利用されているが、海外で被害事例があることに留意し、飼養に当たり野外への遺棄を起こすことがないよう、関係業者や飼養者に普及啓発を行なうことが重要。熱帯・亜熱帯性であり、定着の可能性が想定されるのは琉球列島等のみである。
スタラロリカリア	<i>Liposarcus disjunctivus</i>	要	生態系(競合・駆逐)	観賞用として利用されているが、野外で定着した場合に生態系に影響を与える可能性があることに留意し、飼養に当たって野外への遺棄を起こすことがないよう、関係業者や利用者に普及啓発を行なうことが重要。熱帯・亜熱帯性であり、定着の可能性が想定されるのは琉球列島等のみである。

## 第二次選定の検討対象種一覧 昆虫類等陸生節足動物(案)

第4回昆虫類等会合(5/25)

\*要:要注意リスト掲載種、日本生態学会リスト100 IUCNリスト100

和名	学名	*	文献等で指摘されている影響の内容	摘要
----	----	---	------------------	----

### 第二次の特定外来生物の選定作業が必要と考えられる外来生物

コマアリ	<i>Wasmannia auropunctata</i>		生態系(競合・駆逐・捕食)、人の生命、身体に係る被害	高い採餌能力と攻撃性による他種のアリとの競合・駆逐、捕食等による他の動物への影響が海外で知られている。
アシナガアリ	<i>Anoplolepis gracilipes</i>		生態系(競合・駆逐・捕食)	高い採餌能力と攻撃性による他種のアリとの競合・駆逐、捕食等による他の動物への影響が海外で知られている。すでに南西諸島に定着。
ツヤオオアリ	<i>Pheidole megacephala</i>		生態系(競合・駆逐・捕食)	高い採餌能力と攻撃性による他種のアリとの競合・駆逐、捕食等による他の動物への影響が海外で知られている。すでに南西諸島に定着。
テナガコガネ類	<i>Cheirotonus</i> spp.		生態系(競合・遺伝的攪乱)	愛玩用として、輸入、飼育され、主にインターネット上などで取引が行われている。在来種ヤンバルテナゴコガネとの競合や遺伝的攪乱が懸念される。

### 関係者に利用に当たっての注意を呼びかけるとともに、被害に係る知見等の情報の集積を図る必要がある外来生物

チャイロネットイヌハチ	<i>Delta pyriforme</i>		生態系(競合・駆逐・捕食)	大型の捕食者で小笠原で普通種となっており、在来の昆虫(特にチョウ目)への影響が懸念されるが、実態は不明。
ナノヨチビアシナガハチ	<i>Ropalinda marginata</i>		生態系(競合・駆逐・捕食)	硫黄島では普通種で、捕食による在来昆虫への影響が懸念されるが、実態は不明。小笠原への侵入が懸念される。
クワガタムシ科	Lucanidae	要	生態系(競合・駆逐、遺伝的攪乱)	大量の個体が愛玩用に輸入・販売され、一般家庭にも浸透しており、低年齢層の飼育者も多い。野外での逸出個体の発見があり、遺伝的攪乱も懸念されるが、実証的データは不足している。

### 選定の対象とならないが、放蝶行為への注意喚起が必要な外来生物

ホソオチョウ	<i>Sericinus montela</i>	要	生態系(競合)	ジャコウアゲルとの競合が懸念されている。放蝶に由来すると考えられる分布拡大が見られるため、これらの行為を防ぐ普及啓発が必要。
アカホシゴマダラ	<i>Hestina assimilis</i> (在来 <i>H. a. shirakii</i> を除く)	要	生態系(競合)	ゴマダラチョウとの競合が懸念されている。 <i>Hestina assimilis shirakii</i> が奄美大島に在来で分布するが、神奈川県などで分布を拡大中の種は国外産の亜種である。放蝶行為を防ぐための普及啓発が重要。

## 第二次選定の検討対象種一覧 無脊椎動物(陸生節足動物を除く)(案)

第3回無脊椎動物学会(5/30)

\*要:要注意リスト掲載種、日本生態学会ワ-スト100 IUCNワ-スト100

和名	学名	*	生息域	導入経路 導入手段	文献等で指摘されている 影響の内容	摘要
第二次の特定外来生物の選定作業が必要と考えられる外来生物						
カヒバリガイ	<i>Limnoperna fortunei</i>	要	淡水産	非意図的 水産物への混入	生態系(競合・駆逐)	諸外国では在来生物群集の生息地を圧迫するなどの被害がある。また、本種を中間宿主とする寄生虫による魚病被害や大繁殖による導水管の通水障害が発生している。水産資源(アサリ、シジミなど)の輸入の際に混入する。
カホトキスガイ	<i>Dreissena polymorpha</i>	要	淡水産	非意図的 物資等への混入	生態系(競合・駆逐)	国内での被害の知見は明確でないが、諸外国では取水施設への汚損被害や、在来二枚貝への付着による死亡などの多大な被害を与えている。輸入物資等へ混入して侵入する危険性がある。
ヨーロッパミドリガニ	<i>Carcinus maenas</i>	要	海産	非意図的 プラスチック等	生態系(捕食)、 農林水産業	国内では未定着であるが、諸外国では水産業への被害や在来生物への捕食など多大な被害を与えている。
ヤマヒタチオビ (オヒタチオビガイ)	<i>Euglandina rosea</i>	要	陸生	意図的 天敵導入	生態系(捕食)	小笠原固有の陸貝を捕食し激減させている。分布拡大を防ぐ必要がある。
ニューギニアヤリガタリクスムシ	<i>Platydemus manokwari</i>	要	陸生	非意図的 不明	生態系(捕食)	小笠原固有の陸貝を捕食し激減させている。土壌に紛れての非意図的な拡大が懸念されるために、分布拡大を防ぐ必要がある。

### 被害に係る一定の知見はあり、被害の防止に向けた普及啓発・防除手法の具体的検討を進めつつ、引きつづき、指定の適否につき検討する外来生物

ウチダザリガニ	<i>Pacifastacus leniusculus</i>	要	陸水産	意図的 食用・蓄養	生態系 (競合・駆逐、捕食)	北海道における在来種への影響等が懸念されている。食用利用され、また観賞用としても流通しているために、適切な管理下での利用が必要。
アメリカザリガニ	<i>Procambarus clarkii</i>	要	淡水産	意図的 食用・増養殖	生態系(競合・駆逐、捕食、 環境攪乱など)	既に広範囲に分布しており、特に希少な水草や水生昆虫への影響が懸念される。大量に使用されていると思われるが、安易な利用は行わないなどの普及啓発が重要。
チュウゴクモクスガニ	<i>Eriocheir sinensis</i> , <i>E. hepuensis</i>	要	海産～ 淡水産	意図的 食用・蓄養	生態系(競合・駆逐、遺伝的 攪乱)、農林水産業	諸外国では生態系・水産業へ多大な被害を与えており、日本では在来種との交雑の可能性も示唆されている。食用として大量に輸入され、国内での養殖の動きも見られることから、野外への逸出が懸念される。
ムラサキガイ	<i>Mytilus galloprovincialis</i>	要	海産	非意図的 プラスチック等	生態系(競合・駆逐、遺伝的 攪乱)、農林水産業	既に広範囲に分布しており、内湾生態系を一変させてきた。養殖貝類・取水施設等への付着により多大の被害を与えている。在来種との交雑が発見されており、遺伝子攪乱が懸念される。防除は困難であるが、大量発生時の汚染被害等に注意が必要。一部で養殖が行われている。
カサネカンザシ	<i>Hydroides elegans</i>	要	海産	非意図的 プラスチック等	生態系(競合・駆逐、環境攪 乱)、農林水産業	養殖カキの殻表面に付着し養殖業に多大な被害を与えたほか、取水施設への汚損被害を引き起こしている。被害に係わる知見は多いが、既に広範囲に分布しており、駆除、防除が難しい。大量発生時には汚染被害等に注意が必要。
ミドリガイ	<i>Perna viridis</i>	要	海産	非意図的 プラスチック等	生態系(競合・駆逐、遺伝的 攪乱、環境攪乱)、農林水産 業	養殖貝類・取水施設等への付着により多大の被害を与えている。既に広範囲に分布しており、防除は困難である。大量発生時の汚染被害等に注意が必要。

\*要: 要注意リスト掲載種、日本生態学会リスト100 IUCNリスト100

和名	学名	*	生息域	導入経路 導入手段	文献等で指摘されている 影響の内容	摘要
----	----	---	-----	--------------	----------------------	----

関係者に利用等に当たっての注意を呼びかけるとともに、被害に係る知見等の情報の集積を図る必要がある外来生物

イガイダマシ	<i>Mytilopsis sallei</i>	要	海産	非意図的 ハラスト水等	生態系(競合・駆逐、環境攪乱)	インドでは船舶・取水施設への汚損被害を与えている。日本でも分布を広げており、在来付着生物との競合が懸念されている。国内での被害の知見は明確でないが、今後はハラスト水等の適切な管理に注意が必要。
タイワシジミ種群	<i>Corbicula fluminea</i>	要	淡水産	意図的 食用・蓄養	生態系 (競合・駆逐・遺伝的攪乱)	アメリカの河川で大繁殖し、船舶の通行障害や在来二枚貝の生息を圧迫する等の被害を引き起こしている。国内での被害の知見は明確でないが、分布を拡大中の外来生物であり、分布拡大を防ぐための普及啓発が必要。
シナハマグリ	<i>Meretrix petechialis</i>	要	海産	非意図的 食用・蓄養	生態系(遺伝的攪乱)	国内での被害の知見は明確でないが、蓄養・放流時には拡散防止の注意が必要。
カニヤドリカンザシ	<i>Ficopomatus enigmaticus</i>	要	海産	非意図的 ハラスト水等	生態系(競合・駆逐、環境攪乱)、農林水産業	ヨーロッパでは取水障害などの被害を与えている。国内での被害の知見は明確でないが、ハラスト水等の適切な注意と管理が必要。
チチュウカイミドリガニ	<i>Carcinus aestuarii</i>	要	海産	非意図的 ハラスト水等	生態系(捕食)	在来種との競合の可能性はある。国内での被害の知見は明確でないが、既に分布を拡大中の外来生物であり、ハラスト水等の管理などにて分布拡大を防ぐことが必要。
コウロエソカワヒバリガイ	<i>Xenostrobus securis</i>	要	海産	非意図的 ハラスト水等	生態系(競合)、農林水産業	既に広範囲に分布しており、防除は困難であるが、大量発生時の汚損被害等に注意が必要。
タテジマフジツボ	<i>Balanus amphitrite</i>	要	海産	非意図的 ハラスト水等	生態系(競合・駆逐)	在来種と競合し、減少させた可能性がある。国内での被害の知見は明確でないが、ハラスト水等の適切な管理に注意が必要。
カラムシロ	<i>Nassarius sinarus</i>	要	海産	非意図的 水産物への混入	生態系(競合)、農林水産業	有明海においてハゼ漁などに多大な被害を与えている。水産資源(アゲマキなど)の輸入の際に混入するので、水産資源の輸入の際には注意が必要。

諸外国で被害の知見があるが、わが国で被害を及ぼすおそれは高くない生物

ムネミオプシスレイディ (ツノクラゲの一種)	<i>Mnemiopsis leidyi</i>		海産	非意図的 ハラスト水等	生態系(捕食・競合)	黒海では、捕食によりプランクトンの群集構造に影響を及ぼし、プランクトン食の魚類の減少を引き起こした。
セルコパジス・ペンゴイ (オオメシジコ科の一種)	<i>Cercopagis pengoi</i>		汽水～ 淡水産	非意図的 ハラスト水等	生態系(捕食・競合)	海外で稚魚や他の水生生物の餌となる小型の動物プランクトンを捕食し、在来生物の成長阻害や減少を引き起こしていると考えられている。

第二次選定の検討対象種一覧 植物(案)

\* 要:要注意リスト掲載種、日本生態学会リスト1100、IUCNリスト100

導入・利用の形態	和名	学名	*	文献等で指摘されている影響の内容	摘要
第二次の特定外来生物の選定作業が必要と考えられる外来生物					
意図的導入	水草	アザミキクサ属	要	生態系(競合・駆逐、遺伝的攪乱)	アゾラ・アライモ農法での使用で急速に分布が広がり、絶滅危惧種の遺伝的攪乱のおそれがある。
		オオアザミ	要	生態系(競合・駆逐)	ビオトープ創出や水質浄化目的等に利用されているが、過繁茂により問題を引き起こしている。
		ホトケシザキ	要	生態系(競合・駆逐)	ビオトープ植物や、金魚用の浮き草として広く販売されているが、九州などで大発生している。
陸生		オオキンケイトク	要	生態系(競合・駆逐)	ワイルドフラワー緑化などで使用されたものが、河川敷などに逸出している。
		オオハコソウリ	要	生態系(競合・駆逐)	国立公園など自然性の高い場所で大群落を形成し、駆除活動の対象となっている。
非意図的導入	混入等	アレチカサ	要	生態系(競合・駆逐)	河川敷に侵入し、在来種の生育を脅かしている。飼料畑などの強害雑草になっている。
		オオカサシヤ	要	生態系(競合・駆逐、遺伝的攪乱)	水辺で大群落を形成するとともに、絶滅危惧種の遺伝的攪乱を引き起こしている。
		オオアザミ	要	生態系(競合・駆逐、環境攪乱)	河川敷などに侵入し、絶滅危惧種の生育を脅かしている。
		ナルトガキク	他	生態系(競合・駆逐)	海外では侵略的な外来種とされ、日本でも近年急激に分布を拡大している。
未導入	スハルヒヤ・アングリカ	Spartina anglica	要	生態系(競合・駆逐)	温帯～亜熱帯域の淡水域や汽水域に生育するイネの多年草で、在来の動植物に影響を及ぼすおそれがある。

被害に係る一定の知見はあり、被害の防止に向けた普及啓発・防除手法の具体的な検討を進めつつ、引きつづき、指定の適否につき検討する外来生物

意図的導入	水草	オオカタモ	要	生態系(競合・駆逐、環境攪乱)、農林水産業	大量に利用されており規制による大量遺棄が危惧される。既に広範囲に蔓延しており指定の緊急性は低い。
		コカタモ	要	生態系(競合・駆逐、環境攪乱)	流通、販売されていないので、規制の効果が期待できない。既に広範囲に蔓延しており指定の緊急性は低い。
		ホテイアオイ	要	生態系(競合・駆逐、環境攪乱)、農林水産業	大量に利用されており規制による大量遺棄が危惧される。既に広範囲に蔓延しており指定の緊急性は低い。
陸生	セイヤカアワダチソウ	Solidago altissima	要	生態系(競合・駆逐、環境攪乱)	河川敷などに侵入し、絶滅危惧種の生育を脅かしている。既に広範囲に蔓延しており指定の緊急性は低い。

総合的な検討を進める外来生物

意図的導入	緑化など	イチョバキ	要	生態系(競合・駆逐、環境攪乱)	緑化植物の利用実態の把握、緑化植物による生態系等への被害の発生構造の把握、代替的手法や代替的緑化植物の適用可能性の検討などを行う。
		キンギョソウ	要	生態系(競合・駆逐、環境攪乱)	
		ハリエンジュ	要	生態系(競合・駆逐、環境攪乱)	
		トクニシキ	要	生態系(競合・駆逐)	
		ハイヨモギ	要	生態系(競合・駆逐)	
		シダレスズメ草	要	生態系(競合・駆逐、環境攪乱)	
		オニウシバ	要	生態系(競合・駆逐)、農林水産業	
		カモガヤ	要	生態系(競合・駆逐)、農林水産業	
		シムロキ	要	生態系(競合・駆逐、環境攪乱)、農林水産業	
		ネズミムシ・ネムシ	他	生態系(競合・駆逐)、農林水産業	
		キンギョソウ	要	生態系(競合・駆逐、環境攪乱)、農林水産業	
	オオアザミ	要	生態系(競合・駆逐、環境攪乱)、農林水産業		

関係者に利用に当たっての注意を呼びかけるとともに、被害に係る知見等の情報の集積を図る必要がある外来生物

意図的導入	水草	オオソウジョウモ	要	生態系(競合・駆逐、遺伝的攪乱)、農林水産業	運搬や栽培は、管理されている場所や施設以外へ逸出を起こさない適切な方法で行うことが重要。また、遺棄を起すことがないよう、関係業者や栽培者に普及啓発を行うことが重要。ビオトープ創出等の目的で公共事業や学校教育において利用する場合には地域の生態系への影響に注意が必要。
		ハコロモ	要	生態系(競合・駆逐)	
		アヲカスエキソウ	要	生態系(競合・駆逐)	
		オトメアザミ	要	生態系(競合・駆逐)、農林水産業	
		ハナカバタ	要	生態系(競合・駆逐)	
		ナガハオモカ	要	生態系(競合・駆逐)	
		キショウフ	要	生態系(競合・駆逐)、農林水産業	
		陸生	チョウセンアサガオ属	他	
		ムラサキカハミ	要	生態系(競合・駆逐)、農林水産業	
		ハルジオン	要	生態系(競合・駆逐、環境攪乱)、農林水産業	
	ヒメジョオン	要	生態系(競合・駆逐、環境攪乱)、農林水産業		
	ハカカヲク	要	生態系(競合・駆逐)		



導入・利用の形態	和名	学名	*	文献等で指摘されている影響の内容	摘要	
その他	キクイ	<i>Helianthus tuberosus</i>	要	生態系(競合・駆逐)、農林水産業	運搬や栽培は、管理されている場所や施設以外へ逸出を起こさない適切な方法で行うことが重要。また、遺棄を起すことがないよう、関係業者や栽培者に普及啓発を行うことが重要。	
	外来種ツボミ種群	<i>Taraxacum officinale</i>	要	生態系(競合・駆逐、環境攪乱、遺伝的攪乱)、農林水産業		
	アザミガサ	<i>Nasturtium officinale</i>	要	生態系(競合・駆逐)、農林水産業		
混入等	ハリビ	<i>Amaranthus spinosus</i>	要	生態系(競合・駆逐、環境攪乱)、農林水産業	逸出して生態系等に影響を及ぼすことを防止するため、導入される経路について現状を把握し、管理されている場所や施設以外への逸出を防ぐ方を検討することが必要。	
	イビ	<i>Abutilon theophrasti</i>	要	生態系(競合・駆逐、環境攪乱)、農林水産業		
	イソバキキ	<i>Rumex obtusifolius var. agrestis</i>	要	生態系(競合・駆逐)、農林水産業		
	ハルサキヤマガラシ	<i>Barbarea vulgaris</i>	要	生態系(競合・駆逐、環境攪乱)、農林水産業		
	トクニンソウ	<i>Conium maculatum</i>	要	生態系(競合・駆逐)、農林水産業		
	マツヨイグサ	<i>Oenothera biennis</i>	要	生態系(競合・駆逐、環境攪乱)、農林水産業		
	コマツヨイグサ	<i>Oenothera lacinata</i>	要	生態系(競合・駆逐、環境攪乱)		
	ワルナスビ	<i>Solanum carolinense</i>	要	生態系(競合・駆逐)、農林水産業		
	ヤセウツボ	<i>Orobanche minor</i>	要	生態系(競合・駆逐)、農林水産業		
	ヘラオハコ	<i>Plantago lanceolata</i>	要	生態系(競合・駆逐)、農林水産業		
	アメリカナンカスラ	<i>Cuscuta pentagona</i>	要	生態系(競合・駆逐)、農林水産業		
	セイヨウハルカオ	<i>Convolvulus arvensis</i>	要	生態系(競合・駆逐)、農林水産業		
	オオバハムクラ	<i>Diodia teres</i>	要	生態系(競合・駆逐、環境攪乱)		
	アメリカオアシミ	<i>Cirsium vulgare</i>	要	生態系(競合・駆逐)、農林水産業		
	カミツレトキ	<i>Anthemis cotula</i>	要	生態系(競合・駆逐)、農林水産業		
	アザミ	<i>Ambrosia elatior</i>	要	生態系(競合・駆逐、環境攪乱)、農林水産業		
	アザミ	<i>Hypochoeris glabra</i>	要	生態系(競合・駆逐)、農林水産業		
	オオオアシミ	<i>Xanthium canadense</i>	要	生態系(競合・駆逐、環境攪乱)、農林水産業		
	アメリカセンダングサ	<i>Bidens frondosa</i>	要	生態系(競合・駆逐)、農林水産業		
	コマセンダングサ	<i>Bidens pilosa var. pilosa</i>	要	生態系(競合・駆逐)、農林水産業		
	オアシミ	<i>Coryza sumatrensis</i>	要	生態系(競合・駆逐、環境攪乱)、農林水産業		
	ヒメカシヨモギ	<i>Erigeron canadensis</i>	要	生態系(競合・駆逐)、農林水産業		
	アメリカハムクラ	<i>Andropogon virginicus</i>	要	生態系(競合・駆逐)、農林水産業		
	アメリカヤブ	<i>Cyperus eragrostis</i>	要	生態系(競合・駆逐)、農林水産業		
	シロバナヤブ	<i>Cyperus esculentus</i>	他	農林水産業		
	未定着(一部は観賞用に栽培、逸出している)	オアシミ	<i>Acacia mearnsii</i>	生態系(競合・駆逐)		緑化用などに、沖縄などの一部の地域で利用されているが、逸出しないような適切な管理が必要である。
		セイヨウシロヤブ	<i>Ardisia elliptica</i>	生態系(競合・駆逐)		観賞用などに、沖縄などの一部の地域で利用されているが、逸出しないような適切な管理が必要である。
アザミ		<i>Cecropia peltata</i>	生態系(競合・駆逐)	観賞用などに、沖縄などの一部の地域で利用されているが、逸出しないような適切な管理が必要である。		
ヒマワリ		<i>Chromolaena odorata</i>	生態系(競合・駆逐、環境攪乱)、農林水産業	日本には侵入していないが、沖縄などの暖地では、侵入の可能性があるため注意が必要である。		
アキナシ		<i>Cinchona pubescens</i>	生態系(競合・駆逐)	日本に侵入する可能性は低いですが、沖縄などの暖地では、注意が必要である。		
アメリカササ		<i>Cidemia hirta</i>	生態系(競合・駆逐)、農林水産業	日本に侵入する可能性は低いですが、沖縄などの暖地では、注意が必要である。		
キハチシロ		<i>Hedychium gardnerianum</i>	生態系(競合・駆逐)	観賞用などに、沖縄などの一部の地域で利用されているが、逸出しないような適切な管理が必要である。		
ランタナ		<i>Lantana camara</i>	生態系(競合・駆逐)、農林水産業	観賞用などに利用されており、沖縄や小笠原諸島では野生化しており、分布が拡大しないよう注意が必要である。		
リクストム		<i>Ligustrum robustum</i>	生態系(競合・駆逐)	日本に侵入する可能性は低いですが、沖縄などの暖地では、注意が必要である。		
カブテ		<i>Melaleuca quinquenervia</i>	生態系(競合・駆逐)	日本に侵入する可能性は低いですが、沖縄などの暖地では、注意が必要である。		
オアシミ		<i>Miconia calvescens</i>	生態系(競合・駆逐)	観賞用などに、沖縄などの一部の地域で利用されているが、逸出しないような適切な管理が必要である。		
ミカン		<i>Mikania micrantha</i>	生態系(競合・駆逐)、農林水産業	日本に侵入する可能性は低いですが、沖縄などの暖地では、注意が必要である。		
ミモサ		<i>Mimosa pigra</i>	生態系(競合・駆逐)、農林水産業	日本には侵入していないが、沖縄などの暖地では、侵入の可能性があるため注意が必要である。		
モレラ		<i>Morella faya</i>	生態系(競合・駆逐)	日本に侵入する可能性は低いですが、沖縄などの暖地では、注意が必要である。		
オアシミ		<i>Opuntia stricta</i>	生態系(競合・駆逐)	日本に侵入する可能性は低いですが、沖縄などの暖地では、注意が必要である。		
アサキ		<i>Pinus pinaster</i>	生態系(競合・駆逐)	日本に定着できる可能性があるため、導入する場合には、管理方法などに注意が必要である。		
アサキ		<i>Prosopis glandulosa</i>	生態系(競合・駆逐、環境攪乱)	日本に侵入する可能性は低いですが、沖縄などの暖地では、注意が必要である。		
アサキ		<i>Sidaium cattleianum</i>	生態系(競合・駆逐)	観賞用などに利用されており、小笠原諸島では野生化しているため、分布が拡大しないよう注意が必要である。		
キハチシロ		<i>Rubus ellipticus</i>	生態系(競合・駆逐)	日本に定着できる可能性があるため、導入する場合には、管理方法などに注意が必要である。		
アサキ		<i>Schinus terebinthifolius</i>	生態系(競合・駆逐)	観賞用などに利用されており、小笠原諸島では野生化しているため、分布が拡大しないよう注意が必要である。		
アサキ		<i>Spatheodea campanulata</i>	生態系(競合・駆逐)、農林水産業	観賞用などに、沖縄などの一部の地域で利用されているが、逸出しないような適切な管理が必要である。		
アサキ		<i>Tamarix ramosissima</i>	生態系(競合・駆逐)	観賞用などに、流通、利用されているが、逸出しないような適切な管理が必要である。		
アサキ		<i>Ulex europaeus</i>	生態系(競合・駆逐)、農林水産業	観賞用などに栽培され、各地で野生化しているため、分布が拡大しないよう注意が必要である。		
アサキ	<i>Sphagnetocola trilobata</i>	生態系(競合・駆逐)、農林水産業	観賞用などに利用されており、沖縄では野生化しているため、分布が拡大しないよう注意が必要である。			